

福岡商工会議所 経営発達支援計画 令和4年度実績と評価について

1. 福岡商工会議所 経営発達支援計画の概要

- ・経営発達支援計画は、商工会または商工会議所が、小規模事業者の経営戦略に対する支援を実施する計画。経済産業大臣が認定。(根拠：商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律(平成5年法律第51号))
- ・当所では、当所の中期方針や事業計画から「経営支援」の部分を抜粋した内容で、計画を策定。(当所の現計画期間：令和4年4月1日～令和7年3月31日(3期目))

【計画項目(規定項目)】

- 地域の経済動向調査に関すること
- 需要動向調査に関すること
- 経営状況の分析に関すること
- 事業計画策定支援に関すること
- 事業計画策定後の実施支援に関すること
- 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

2. 令和4年度の実施状況および評価について

(1) 定量評価 ※詳細別紙

当所で計画した具体的な24の支援項目について、定量目標を設定して支援に取組み、支援実績に対し定量評価を実施した。

○評価結果

- A評価 17項目(目標達成 達成率：100%以上)
- B評価 2項目(目標を概ね達成 達成率：80%～99%)
- C評価 3項目(目標を半分程度しか達成できなかった 達成率：30%～79%)
- D評価 1項目(目標をほとんど達成することができなかった 達成率：30%未満)
- E評価 1項目(未実施)

(2) 外部有識者による評価・アドバイス

当所の令和4年度の実施状況等に対し、外部有識者による「評価会議」を開催した。概要は次のとおり。

- 日時 令和5年6月2日(金) 10時～12時
- 有識者 別府美千代氏(株BUSINESS SUPPORT WORLD 代表取締役会長)
 舩山朋輝氏(中小企業基盤整備機構 中小企業アドバイザー)
 砂子隆志氏(中小企業診断士・日本旅行総合研究所 所長)

○外部有識者の評価

【総括】

- ・令和4年度の活動実績は、約8割がB評価以上であり妥当といえる。コロナ禍に加え、コスト上昇や円安、人手不足など、経営に大きな影響を及ぼす課題に直面するなか、事

業再構築や生産性向上など中小企業の「自己変革」を促す支援にシフトしており評価できる。

- ・小規模事業者が環境変化に柔軟に対応しながら持続的に成長・発展できるよう、支援内容を吟味し、寄り添う伴走型支援に取り組んでほしい。

【事業分野別】

(個別事業者支援)

- ・救済型の金融指導中心では、イノベーションや前向きなチャレンジに取り組む事業者への支援に力を割けなくなる。限られた経営資源で濃淡付けながら経営発達支援を進めてほしい。
- ・事業継続の手段として、事業承継への対応は今後増加することが予測される。認知度も上がってきており、M&A や親族承継の活用が主流になってくると思われる。
- ・DX への対応は重要だが、具体的な相談に対応出来る商工会議所はまだ少ないが、小規模事業者の導入ニーズは今後増加すると思われる。福岡商工会議所で支援できる体制整備が出来たことは大変評価できる。

(販路開拓・マッチング支援)

- ・商談会の基本は「リアル開催」であり、特に「食」に関する商談会は、リアル開催の意義が大きい。
- ・バイヤーの動きも活発化しており、他社に先駆けて新商品や、新サービスをバイイングする動きがある。「商工会議所主催の商談会ならではの」強みを活かした事業展開を期待する。

(地域活性化支援)

- ・「博多どんたく」の実施などに積極的に取り組んでおり、全国の観光関係事業者でも注目されている。
- ・福岡商工会議所のように、「経営支援」の観点から観光振興につなげる事業展開をしている事例は、あまり無い。是非、観光アドバイザー制度を活用した支援事例を広げてほしい。

3. 評価を受けての対応について

評価会議での評価・アドバイスを踏まえ、以下に取り組んでいる。

- ①事業者の持つ本質的な課題を捉え、事業変革に導くよう総合的指導を実践し、前向きな事業者の事業継続につなげる。
- ②商談会参加者にはバイヤーの傾向やブランド力や販売力など販路の特徴を捉えた指導を行うことで効果的な商談会を継続していく。
- ③祭りや食文化による地域振興を継続しつつ、専門家を活用した観光事業者向け支援の好事例を増やしていく。

以上